

特集 郷土資料館

開館から二年。見つめ直す 郷土愛

片岡地区にあった矢板市立郷土資料館を旧上伊佐野小学校に移してから、間もなく二年が経過します。その間、多くの企画展などを行い約8000人の皆さんが来場しました。今号では、これからも郷土の歴史を伝え、郷土愛を深める郷土資料館の魅力をお伝えします。



泉 地区自然・歴史・文化多目的交流ゾーンの中核的な施設として郷土資料館は市の総合計画の重点計画に位置づけられている。このゾーンでは、山縣有朋記念館や住友ミュージアムなどの民間展示施設と連携し、この地域の観光価値を高めることを目的としている。さらには、山の駅たかはら、リング団地などの連携も強化し、交流人口の増加を図っていく必要がある。

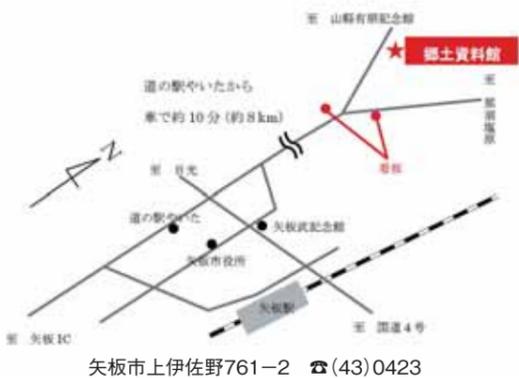


多 目的ホールでは、さまざまな企画展が行われて、人気を博している。子どもたちが楽しめるような夏休みの企画展や、地元が生んだ水墨画家「高野耕雨水墨画展」などには多くの方が訪れた。また、写真愛好家の合同作品展、切り絵展など趣旨に合えば一般の方々の作品展を行うことも可能だ。ぜひ利用してほしい。

体 験することを重視している郷土資料館では、さまざまな体験メニューを用意している。「つるかご作り体験」「土器づくり体験」「竪穴住居づくり」など、体験学習室や敷地を使って皆さんの学習の場や思い出づくりに役立ててほしい。

常 設展示では、原始時代―古代―中世―近世―近現代―自然―そして体験ゾーンと、歴史を追って文化遺産を展示している。木の葉や貝などの化石。まが玉などの装飾品。人が入れそうなほどの大きな土器の甕、江戸末期に焼かれていた平野焼、近代の農具や民芸品、当時の庄屋の家を復元した模型など、各時代を代表するような、多くの郷土の品々を見ることが出来る。

郷 土資料館は高原山麓の大自然に囲まれた恵まれた環境に存在する。廃校となった旧上伊佐野小学校の校舎を再利用したその建物は、木をふんだんに使ったおしゃれな外観や間取りを活かし、あまり予算をかけずに転用することができた。この広い建物により、矢板市の古代から現代までの歴史を見やすく、分かりやすく展示することができている。県内を見てもこれほど大きな郷土資料館は珍しい。



Yaitashi Kyodo Shiryokan Topics

love for one's home district.

